



日高市長 谷ヶ崎 照雄氏

市長のメッセージ

日高市は、500万本の曼珠沙華が一面に咲き誇る巾着田が全国的に有名で、毎年多くの方が訪れます。都心から40キロ圏内と通勤・通学にも便利な立地で、自然と暮らしが調和する住みやすいまちです。

本年度は、「子育て支援」「生活環境の充実」「『健幸のまち』づくり」「ゼロカーボンシティの実現」「安心安全のまちづくり」の5つの重点施策を掲げ、まちづくりを推進しています。

これらの取り組みを確実に前進させ、「誰もが安心して住み続けられるふれあい清流文化都市」を目指し、持続可能で活力あるまちづくりを進めてまいります。

はじめに

日高市は、埼玉県の南西部に位置する東西約11km、南北約6km、面積47.48km²のまちである。東部はなだらかな台地で武蔵野の面影が色濃く残る市街地、西部は秩父山地と高麗丘陵の山地・丘陵地帯で、丘陵と台地の間には高麗川が流れている。

1955年に高麗村と高麗川村が合併して日高町となり、翌年に高萩村を編入。1991年10月の市制施行により、日高市が誕生した。

市の東側に圏央道と国道407号、西側に国道299号が走り、県道川越日高線がこれらを結んでいる。鉄道はJR八高線とJR川越線、西武池袋線が乗り入れ、4つの駅がある。

市内には観光スポットが多い。1300年の歴史がある高麗神社は、近代になって、参拝後に内閣総理大臣に就任した政治家が相次いだことから、出世・開運のご利益があるとされ、著名人や成功を願う多くの人々が参拝に訪れている。清流の高麗川では川遊び、高麗川沿いの日和田山ではハイキングを楽しめる。高麗川が蛇行して流れ、巾着のような形をした巾着田（表紙写真）は、9～10月に500万本の曼珠沙華が咲き、多くの人が訪れる。

市では、市内の観光スポットの魅力をPRしていくため、「遠足の聖地プロジェクト」に取り組み、2017年に「遠足の聖地」を宣言した。市のホームページでは、「遠足の聖地」をテーマとした動画を公開している。ホームページをチェックして、ぜひ訪れてみては

いかがだろう。

高麗川駅および周辺地区整備

市内にある4つの駅のうち、市役所に近く、1日平均の乗客数が約3,900人（2024年）と最も多いのが、JR八高線・川越線の高麗川駅だ。現在、利便性の向上に向け、東西を結ぶ自由通路と東口ロータリーを整備中で、来年3月には完成予定である。

今まで東西自由通路がなく、駅の東側の住民が駅に行くためには、駅から離れたところにある踏切や地下道を通る必要があった。整備後は東口から直接駅の改札に入れるようになり、利便性が格段に向上する。

新設される駅舎は、落ち着いた赤色で統一される。これは、巾着田に咲く曼珠沙華の色をイメージしたものだ。来シーズンの曼珠沙華の咲く時期に、曼珠沙華の色をイメージした新駅舎に降り立ち、巾着田を目指してみたい。



高麗川駅東口完成イメージ図

日高市概要

人口(2025年9月1日現在)	53,852人
世帯数(同上)	25,425世帯
平均年齢(2025年1月1日現在)	50.8歳
面積	47.48km ²
製造業事業所数(経済構造実態調査)	178所
製造品出荷額等(同上)	2,359.1億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	282店
商品販売額(同上)	903.2億円
公共下水道普及率	64.4%
舗装率	56.7%

資料:「令和6年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- JR八高線 高麗川駅
JR川越線 高麗川駅、武藏高萩駅
西武池袋線 高麗駅、武藏横手駅
- 圏央道 狹山日高ICから市役所まで約8km

★ 学校給食費の無償化等を開始

市では子育て支援の一環として、本年4月から学校給食費の無償化を実施している。対象となる児童・生徒は、市内の小・中・義務教育学校に在籍し、学校給食を喫食する児童・生徒であるが、食物アレルギー等により、学校給食を喫食せず、代替の弁当を持参する場合には、学校給食費相当額の給付金を支給している。日高市内在住で私立学校や市外の公立学校等に通う場合にも、他制度で給食費の支援を受けている場合を除き、給付金が支給されている。

無償化は、児童・生徒の保護者の所得制限や市税等の滞納状況に関わらずに対象としており、市では子育て世帯のバックアップにつながることを期待している。

★ 「新しい公共交通サービス」を2025年4月に開始

本年4月、市では市内の交通利便性を高めるべく、2つの「新しい公共交通サービス」の提供を開始した。「おでかけタクシー」と「おでかけワゴン」で、いずれも市内のタクシー会社2社と実施している。

「おでかけタクシー」は、事前に登録を済ませた16歳以上の市内在住者が、日曜日・祝日・年末年始を除き、日中時間帯に、自宅を含めた予め定められた乗降ポイントの間で利用できる。利用料金はタクシーメーター表示額に応じて500円から3,000円まで7段階に設定されており、概ねタクシー料金の半額で利用可能だ。乗降ポイントは、市役所や公的な集会

施設、医療施設、郵便局や金融機関のほか、スーパー・コンビニ、ドラッグストア、美容院、飲食店など幅広に設定されており、外出の動機が高まる効果も期待できる。

「おでかけワゴン」は、市内を走る路線バスの一部系統の運行がなくなったことを受けて、ワゴン車による代替移動手段として誕生、来年6月の本格運行に向けた実証運行を実施している。運行は、日曜日・祝日・年末年始を除くが、時間帯は「おでかけタクシー」より幅広に設定されており、「おでかけの足」として利用できるよう配慮されている。こちらは、事前登録不要で市外在住者の利用も可能だ。

「おでかけタクシー」・「おでかけワゴン」とも、多くの市民に活用されている。ドライバー不足により、路線バスの減便やタクシーがつかまらない事象が全国的に発生しているなか、市は、この「新しい公共交通サービス」により、市民の移動の足を守り続けていく。

(太田富雄)



日高市おでかけワゴンの車両